

仏教僧の先駆的な活動から輸出振興のための政策支援へ

井上 莊太郎

(国際領域 上席主任研究官)

歴史的に形成された、2つの有機農業システムのタイプ

統合型有機農業システムと単作有機農業システムの2つのタイプ: が存在 (Hnin Ei Win (2017))

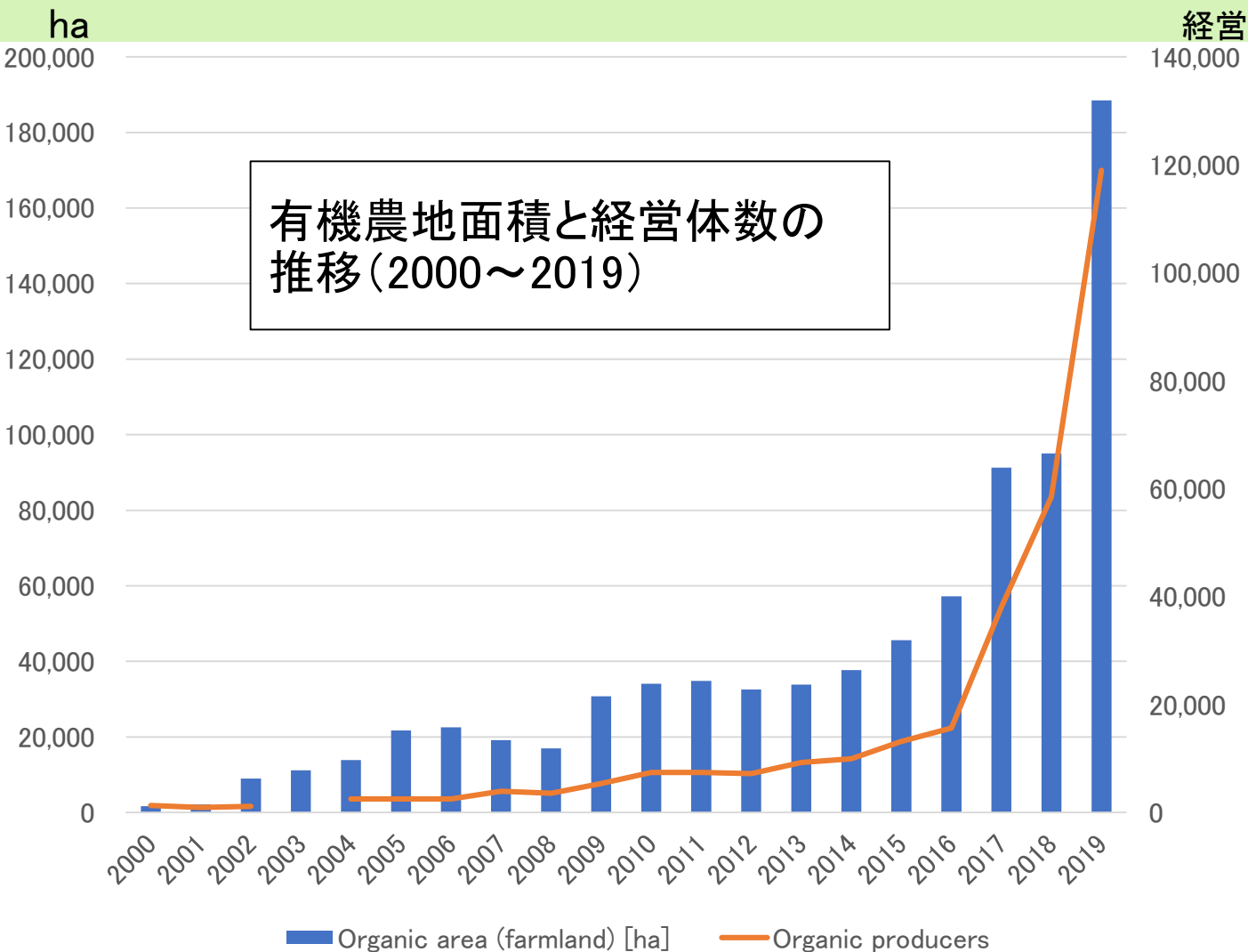
1. 統合型有機農業システム: 多品目栽培, 農家の食料自給率改善を重視。

1. 農家の生産費用の削減。
2. 生態系バランスの維持をはかるため, 環境を重視した生産システムを推進する。
3. 生産物の販売は、地域コミュニティによって、地域の品質基準で市場流通。生産者(農家)と消費者の間にはコミュニケーションが存在。フェアトレードの例も多い。
4. 有機生産だけでなく道徳(飲酒・喫煙・ギャンブルを行わない, 五戒)が求められる道徳米の例(ヤソトン)

2. 単作有機農業システム: 有機農業導入による収益の増加を重視。

1. 生産から消費までの過程において、市場競争が存在。
2. 環境面でも安全な有機農産物を、大量に生産し、国際的な基準を満たした製品を販売(輸出)する。
3. 有機農業やフェアトレードもマーケティングの材料。

(1) タイの有機農業の概況



・2019年で、全体で188,451haの面積が認定されている。(多くは水田)

・2015年以降、増加傾向が目立つ。

・2017年開始の「100万ライ有機米」でタイの有機米が急速に拡大。

→この政策は2021年に1年延長が決定。

資料: FiBL Statistics

タイの参加型認証: Participatory Guarantee Systems (PGS) の拡大

year	Producers certified	Producers involved	Total PGS certified land [ha]
2016	866	1,155	1,579
2020	2,029	2,155	3,367

Source: FiBL and IFOAM (2021), Table 47: PGS statistics 2020

(2) 有機農地面積と経営体数, 小売販売額の国際比較

Country	Organic area	World rank	Organic share	Organic producers	Organic retail sales
	[ha]		[%]	[no.]*	[Million €]
Australia	35,687,799	(1)	9.90%	1,829	1,224
France	2,240,797	(6)	7.70%	47,196	11,295
Germany	1,613,785	(10)	9.70%	34,136	11,970
Indonesia	251,619	(32)	0.40%	18,162	N.A.
Thailand	188,451	(38)	0.90%	118,985	12
Japan	10,792	(93)	0.20%	3,678	1,419
World	72,285,656		1.50%	3,135,129	106,404

Source: FiBL survey 2021, based on data from governments, the private sector, and certifiers. For retail sales data: FiBLAMI-survey 2021, based on data from government bodies, the private sector, and market research companies. For detailed data sources see annex, page 317

*Total number includes data for countries with less than three operators.

FiBL & IFOAM Organics International (2021): The World of Organic Agriculture. Frick and Bonn

国際的に見ると、
タイの有機農業面積
は小さい。

アジアの中では中位

有機農家数は多い
(世界5位)

国内市場は小さい

→発展の初期段階？

(3) タイの有機農産物の輸出入の状況 (有機農業行動計画2023-2027草案より)

輸出

- 主な輸出品目は、米、ドリアン、マンゴスチン、ヤングココナッツ、ココナッツミルク、茶等
- 輸出量は、2017年は13,539トン、2018年は17,581トン、2019年は21,443トン、2020年は30,843トンと増加。
- 輸出額は2017年は5億7,405万バーツ、2018年は8億5,301万バーツ、2019年は10億2,383 万バーツ、2020年は17億3,503万バーツと増加。
- 主な輸出先： 米国、香港、イタリア、ベトナム、中国、スイス等。

輸入

- 主な輸入品目は、もち米、香り米、冷凍ドリアン、ココナッツミルク
- 輸入量は、2018年は0.5トン、2019年は875トン、2020年は955トンと増加。
- 輸入額は、2018年は5万バーツ、2019年は682万バーツ、2020年は754万バーツと増加。
- 主な輸入先：ミャンマー、パキスタン、ベトナム、ラオス等

(4) タイ政府の有機農業生産

・国家有機農業開発戦略（2017-2021）

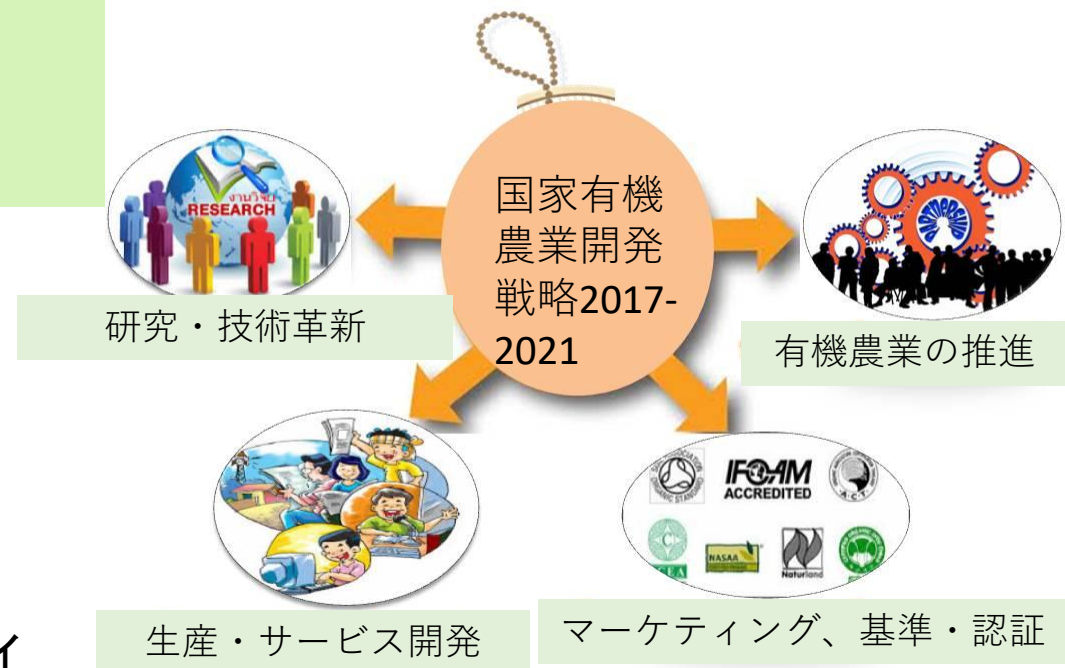
- ・有機農産物の国内市場の割合を40%に上昇。
- ・5年間で有機農地を60万ライ、有機農家を3万戸に増加。

・（草案）国家有機農業行動計画（2023-2027）

- ・有機農産物生産は毎年3%成長、5年間で有機農地を200万ライ
- ・有機生産者（PGS及びTAS9000を満たす）を13万に増加。TAS: Thai Agricultural Standard

・有機認証制度

- ・政府官庁による認証：（米穀局，農業局，畜産開発局，水産局，桑絹局，土地開発局，農地改革局）
- ・民間認証 PGSの団体，Organic Agriculture Certification Thailand (ACT)



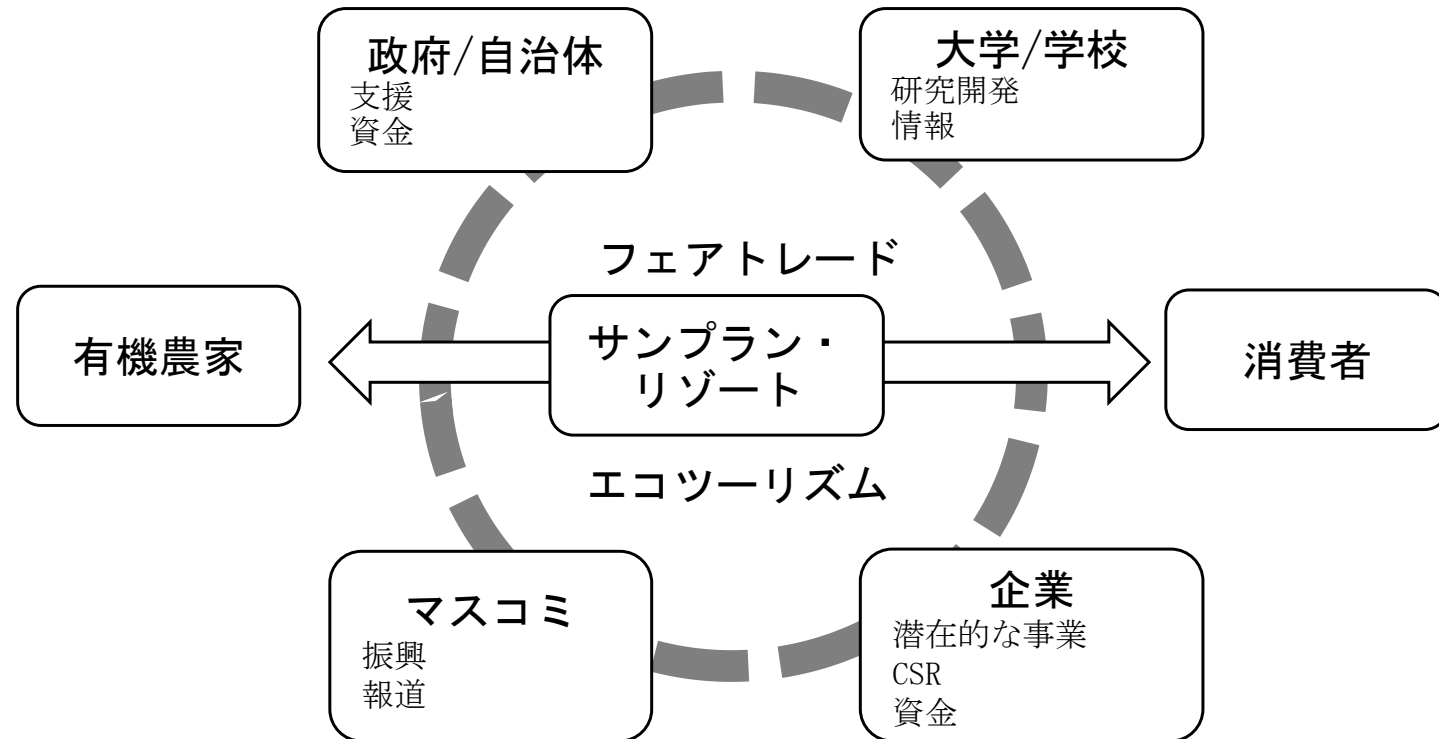
(5) タイにおける有機農業と観光産業の連携例ーSAMPRAN MODEL（井上、2017）

・バンコク近郊（ナコンパトム県）のリゾートホテルを中心に、企業、メディア、政府、教育機関、が連携して、有機農業、フェアトレード、持続的ツーリズムを進める経済モデル。

- ・充足経済哲学に基づく小規模複合農業
- ・政府支援

・IFOAM（国際有機農業運動連盟）が推進する仕組：有機農産物の参加型認証
（Participatory Guarantee Systems (PGS)）

- ・コロナ後に回復するか？



サンبرانモデルの模式図

参考文献

タイ語文献

- ・タイ国有機農業行動計画(2023-2027)(ドラフト)。
- ・国立有機農業開発委員会(2017)「国家有機農業開発戦略 2017-2021」

英語・日本語文献

- ・FiBL and IFOAM (2021) The World of Organic Agriculture, Statistics and Emerging Trends 2021.
- ・FiBL Statistics (<https://statistics.fibl.org/data.html>)
- ・Global Organic Trade Guide (<https://globalorganictrade.com/>)
- ・Hnin Ei Win (2017) Organic Agriculture in Thailand. FFTC Agricultural Policy Platform (FFTC-AP)
- ・IFOAM (<https://www.ifoam.bio/our-work/how/standards-certification/participatory-guarantee-systems>)
- ・井上 莊太郎(2017)「タイの経済思想と農業開発の新潮流」『農林水産政策研究所レビュー』No.76, 4-5。
- ・国立研究開発法人科学技術振興機構シンガポール事務所(2021) 「Bio-Circular-Green(BCG)経済モデルにより経済の回復を目指すタイ」。 https://spap.jst.go.jp/asean/experience/2021/topic_ea_01.html
- ・鶴田 格(2015)「タイにおける有機農産物のフェア・トレードと仏教思想」『白山人類学』18:57-75.